

令和7年5月8日

未来への子育てにエールを届けます

～新生児へのおしりふき配布、こむこむ館利用時の無料駐車サービス券の進呈～

「未来への子育てエール運動推進協議会」様から、子育て支援のため寄附のお申し出をいただきましたので、下記により寄贈式を行います。

この寄贈は、地域全体での子育てを応援する機運醸成のため、当推進協議会が事業所や団体等に呼び掛け、集まった募金を原資として実施されるものです。

記

1 日 時 令和7年5月12日(月)午後1時30分～2時

2 場 所 福島市役所4階 庁議室

3 内 容 子育て支援品の寄贈及び感謝状贈呈

4 寄贈内容

(1)おしりふき1,400個

(2)共通駐車サービス券5,000枚(30分無料券)

5 出席者

(1)寄附者

○「未来への子育てエール運動」推進協議会

会長 細谷 實(ほそやみのる) 様 (一般社団法人福島市私立幼稚園協会理事)

副会長 佐藤良一(さとうりょういち) 様 (福島ライオンズクラブ元会長)

庶務 齋藤 悟(さいとうさとる) 様 (一般社団法人福島市私立幼稚園協会理事長)

○「未来への子育てエール運動」に多大なる募金・参画をしていただいた顕彰団体代表者

(2)応対者

福島市長 木幡 浩

こども未来部長 國分恵美

担当:こども政策課 こども政策係
課長 佐藤敏和、課長補佐 綿谷優子
電話 024-572-3416(直通)

運動概要

子育て環境日本一を目指して～未来への挑戦～

Fukushima city 未来への 子育てエール運動

Raising Children Yell Movement for the Future

運動趣旨【子育て応援の重要性】

子どもは未来の日本(福島市)を支える宝。
子どもを応援しない社会に未来はない。
子どもへの支出は、
より良い未来づくりへの“投資”と考えます。

少子化は「静かなる有事」とわれ、
社会・経済を持続困難にしています。

<子育て支援はまさにSDGsそのもの>



子どもを核としたまちづくりは、結果として
人口増につながり、税収がアップすることで
さらに住みやすい街への整備が行われ、移住
者の増加や地域経済の進展という好循環が
生み出されます。

実現へ向けての福島市の取り組み

日本一の子育て環境づくり

福島市子ども・子育て支援事業計画2020の主要課題

地域社会のそれぞれの役割

「福島市子どもえがお条例」に掲げる民の役割認識と
実践(2021年6月制定)

賛同・応援

運動内容 エールちゃん募金と5つの子育て事業

事業 1

子育てしやすい環境づくり (働きやすい職場環境)

- ベビーファースト運動参画
- 子育て応援パスポート事業(ファミたんカード)
- 「福島市働く女性応援認証企業」登録
- イクボス宣言
- 気軽に相談できる環境づくり etc.

例 認証ステッカー作成

事業 2

こんにちは赤ちゃん エールセットプレゼント

子育て世帯を応援!
経済的負担の軽減に加えて
相談、必要な支援へと繋げる。

例 紙おむつお届け

事業 3

子どもの遊び場づくり

- 各地域に移動式で遊び場を設置
- 企業の特徴や地域の伝統的な行事体験
- 学ば施設への物品貸し出し etc.

例 遊具の購入・イベント開催
例 こむこむ駐車無料券

事業 4

安心して過ごせる 居場所づくり

- 引きこもり支援(職場体験受け入れ)
- 女性の引きこもり支援
- 世代間交流サロンの開設 etc.

例 フードドライブの実施

エールちゃん募金

募金活動を通し、子育て応援の気運を醸成。
協議会で決定した「子育て応援」の財源へ。

- 募金活動の方法は賛同企業・団体の任意とする。
- 募金活動の協力度に応じたコンテスト(表彰制度)の実施も検討。

参画企業・団体の募集

事業 5

子育てサービス 情報の発信

- マスメディアでの情報発信
- SNSなどを活用した情報発信
- 機関誌等への情報掲載 etc.

実施 主体

未来への子育てエール運動推進協議会

官民一体となって活動方針を決定し、参画を推進。
子育て応援の気運醸成を図る。

- 「エールちゃん募金」を運動の中心に据え、上記5つの事業の財源づくりに寄与する。
- 民間ならではの独自の視点・発想・現状認識を踏まえて意見やアイデアを出し合い、市の指導・助言を得ながら、運動の内容を決定。運動の知恵袋、推進エンジンとして機能して行く。



地域社会の6つの構成者をネットワーク化

福島市

育ち学ぶ施設

事業者

地域住民(市推薦)

保護者(協会推薦)

子ども(市推薦)